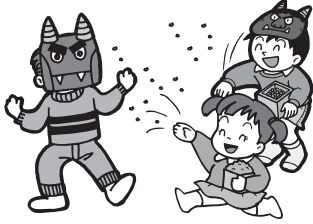


豆まき

イタイヨ～



2/2 共和保育所豆まき

元気いっぱいの子もたちには、こわーい鬼もかいません！
楽しそうな歓声が保育所中に響きわたりました。



鬼は～外！
福は～内！

まちがどスナツプ



埼玉県知事が 本庄の野菜づくりを視察

パンジーで 冬のまちに彩りを



1月22日、児玉白楊高校の生徒から「花いっぱい運動」の一環として、総合支所など市内13か所の施設にパンジーの鉢植えが届けられました。



2月1日、上田知事の「とことん訪問」が行われ、本庄市内の野菜畑を視察しました。
環境に優しく、高品質で生産者情報を確保した野菜生産の現場を視察した後は、農家のみなさんとの意見交換なども行われました。



2/10・11 本庄公民館クラブ活動発表会



1/25 みそ作り教室(西公)

1/27・28 仁手公民館クラブ活動発表会

いきいき生涯学習 公民館活動



2/3・4 本庄東公民館クラブ活動発表会



2/17・18 旭公民館クラブ活動発表会



1/26 おっきりこみ教室
(北泉公)



交通事故をなくそう

昨年、人口1,000人当たりの人身事故発生件数が県内ワースト1という不名誉な記録を作ってしまった本庄市。人身事故件数は市域全体で799件、内訳は死者7名、負傷者1,055名、また、物損事故も1,704件発生しています。前年対比で見ますと、事故件数、負傷者数ともわずかばかり減少していますが、死者数は変わっていません。埼玉県や全国レベルでは交通事故発生件数、死者数とも大幅に減っている中、本庄では逆のことが起きています。今年に入ってから重大な事故が起こり、まさに市の交通事故状況は緊急事態と言えます。

このようなことから、私は今年最重点政策として交通事故の抑止を掲げました。自治会をはじめとする各種団体の皆さま方とともに、警察と協力し、強力で推進していく所存です。さて市内で発生する交通事故の特徴ですが、警察署の調べによると次のような傾向があるようです。

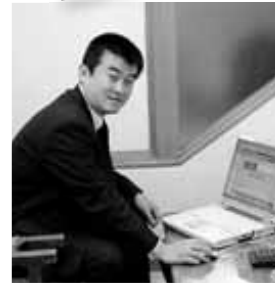
- (1)高齢者の関係する死亡事故が大半を占める（死者7名中高齢者が6名、うち2名が自転車乗車中）。
- (2)人身交通事故総件数の6割、525件が、交差点及び交差点付近で発生。
- (3)人身交通事故の関係者の過半数が警察署管内の住民（つまり地元住民）。

残念ながら本庄市の交通事故は身近なところで起き、しかも、地元の高齢者が巻き込まれるケースが非常に多いことが分かります。

市民のみなさん、交通事故は他人事ではありません。だれもが巻き込まれる、また、起こす可能性があり、被害者、加害者双方の当事者はもとより、家族まで不幸に陥れる恐ろしいものです。お互い細心の注意を払い、県内ワーストクラスの汚名を返上しましょう。

本庄市長 吉田信解

申告は3月15日(木)まで!



確定申告スタート!
市長も「e-Tax」を初体験

行いました。

これは「e-Tax」の便利さをもっと市民のみなさんに知ってもらおうと、市長自らPR役となつて体験したものです。

確定申告初日の2月16日、吉田市長が自宅からインターネットを通じた国税の申告・納税システム「e-Tax」を利用して、所得税の申告を

市長「自宅で簡単に手続きができるうえ、申告書を自分で記入するよりも間違いが少なくて、とても便利ですね。みなさんも「e-Tax」で、お早めに申告しましょう!」

ドキドキ

もっと食べよう!

地元の野菜と果物



2月17日、セルデイにおいて本庄市消費生活モニターのみなさんによる「地元産の野菜と果物パネル展」が開催されました。新鮮な地元産の野菜の紹介や試食も行われ、大勢の人が地元のおいしい野菜や果物を味わいました。

消防団に消防ポンプ車を配車



2月17日、児玉総合支所において消防ポンプ車の配車式が行われ、市長から本庄市消防団児玉方面隊第1分団第3部に引き渡されました。

めでたく100歳を迎えられた銀座2丁目にお住まいの荒井イソさん(明治40年2月7日生まれ)を吉田市長が訪問し、お祝いの「寿状」を手渡しました。



祝百歳



野鳥の詩

キセキレイ (全長20cm)

- 鳴き声 「チチン・チチン」
- 撮影地 ふるさとフラワーパーク

尾が長く腹部の黄色が目立つスマートな野鳥です。公園内の石から石へ飛び移り、水生昆虫を捕食します。河川の上流方面でよく見受けませんが、今年は利根川や元小山川でも比較的に見受けられる機会が多いようです。気が強く、駐車している車のサイドミラーに映る自分の姿をライバルと勘違いし、攻撃するシーンをたまに目撃します。



せせらぎの光のリングボケを入れて幻想的に演出してみました。

文・写真 町田好一郎